
厚木看護専門学校

自己点検・自己評価報告書
学校関係者評価報告書

2016 年度

2017 年 3 月

社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団

厚木看護専門学校

1. 2016 年度の自己点検・自己評価

1) 取り組み総括

自己点検・自己評価の実施は、2005 年度より 2014 年度までは 2 年毎であった。PDCA サイクルを効果的に回していくために、2015 年度より毎年の実施とした。

2016 年度は、2015 年度の評価から 5 つの課題を見出し取り組んだ。以下に課題の取り組みを述べる。

- (1) 学校運営: キャリア評価が不明瞭であり、今年度より教員へのステップを導入し、教員はステップ 3 修得とみなし、ステップ 4 から開始できるようになった。
- (2) 教育活動: 教育の質の向上のため、今年度より学校関係者評価や教育課程編成会議の委員に卒業生や保護者・地域の方などが実施し課題に取り組んだ。また、第三者授業評価に、授業評価の実施後、授業のリフレクションを取り入れ、各教員の教育の向上に取り組んだ。
- (3) 実習: 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、次年度より臨地実習指導者の役割を実習ガイダンスに明文化する準備を行った。
- (4) 学修成果: 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されていない状況であり、今年度より「新人看護師のつどい」にアンケートを実施した。
- (5) 研究活動への支援: 各教員の研究や学会報告を教育会議にて教職員間で伝達・共有し、今年度より研究発表内容を職員室前に掲示した。

2) 実施

2016 年度も自己点検・自己評価は全職員で取り組んだ。また、今年度より事業団関係者以外の学校関係者評価にも取り組んだ。よって今年度から学校関係者評価は、厚木看護専門学校関係者評価会議「明日の厚木看護専門学校を考える会」と事業団関係者による評価の 2 本立てとした。

(1) 自己点検・自己評価について

- ①対象者: 教職員 31 名 回収率 100%
- ②実施日: 2016 年 11 月 10 日～2016 年 11 月 21 日
- ③評価項目: I 教育理念・目的、人材育成、II 学校運営、III-1 教育活動-2 実習、IV 学修成果、V-1 学生支援-2 学生生活の支援、VI 教育環境、VII 学生募集、VIII 財務、IX 法令等の遵守、X 社会貢献・地域交流、XII 看護研究
- ④評価基準: 「不適切…1、やや不適切…2、ほぼ適切…3、適切…4」の 4 段階とした。
- ⑤結果: 2016 年度自己点検・自己評価の結果は、全体平均 3.57 で、昨年同様の水準を維持している。2016 年度の結果 3.5 以下は「学修成果」と「財務」の 2 項目であった。詳細はレーダーチャート図 1 に示した。
- ⑥今後の課題: 2016 年度の結果 3.5 以下の「学修成果」と「財務」の 2 項目は次年度の重点課題である。今後も教職員全員が自己点検・自己評価の意義を考え情報共有しながら取り組む。

(2) 学校関係者評価(厚木看護専門学校関係者評価会議)について

①対象者:9名であり、その内訳は卒業生、地域関係者、保護者、講師、実習施設等の関連業者

②実施日:2016年9月8日

③方法:2015年度自己点検・自己評価結果と取り組みの報告と意見交換

④内容:主に「卒業時に期待するための能力」の育成・支援について話し合った。

(3)学校関係者評価(事業団関係者)について

①対象者:3名であり、その内訳は神奈川県総合リハビリテーション事業団 事務局長 看護師長2名

②実施日:2016年12月21日

③評価項目:I教育理念、目的、人材育成、II 学校運営、III-1教育活動-2実習、IV学習成果、VII学生募集、VIII財務、IX法令等の遵守

④評価基準:「不適切…1、やや不適切…2、ほぼ適切…3、適切…4」の4段階とした。

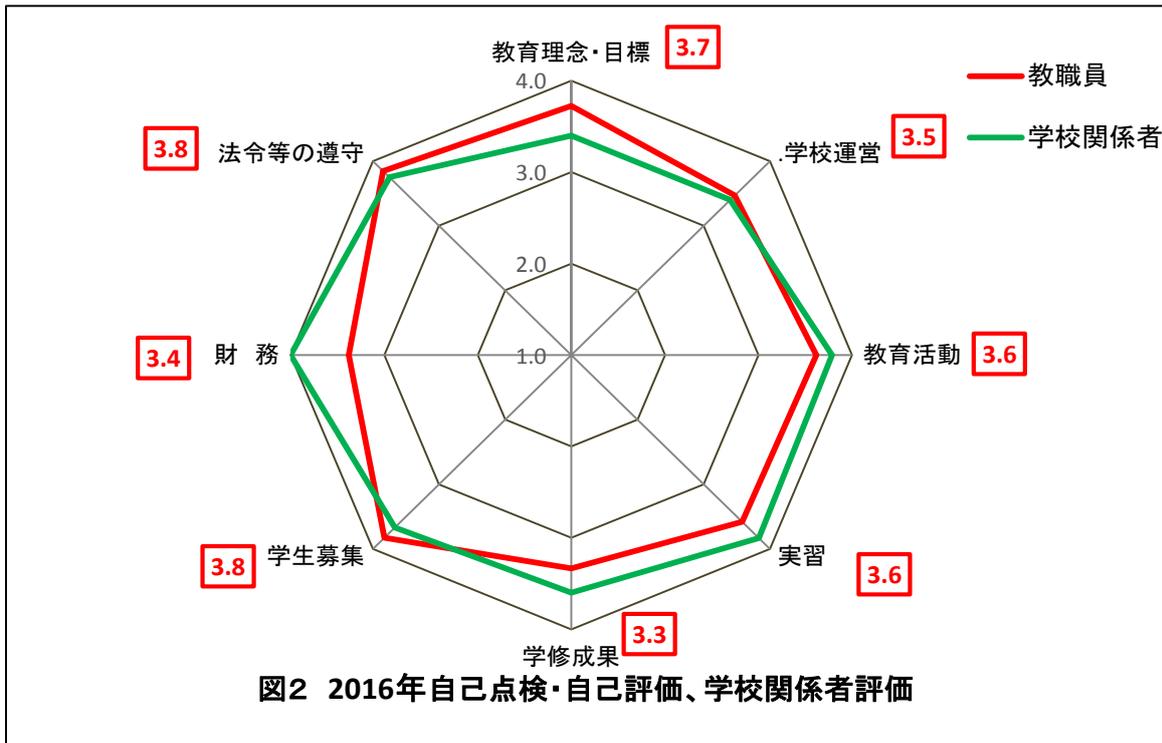
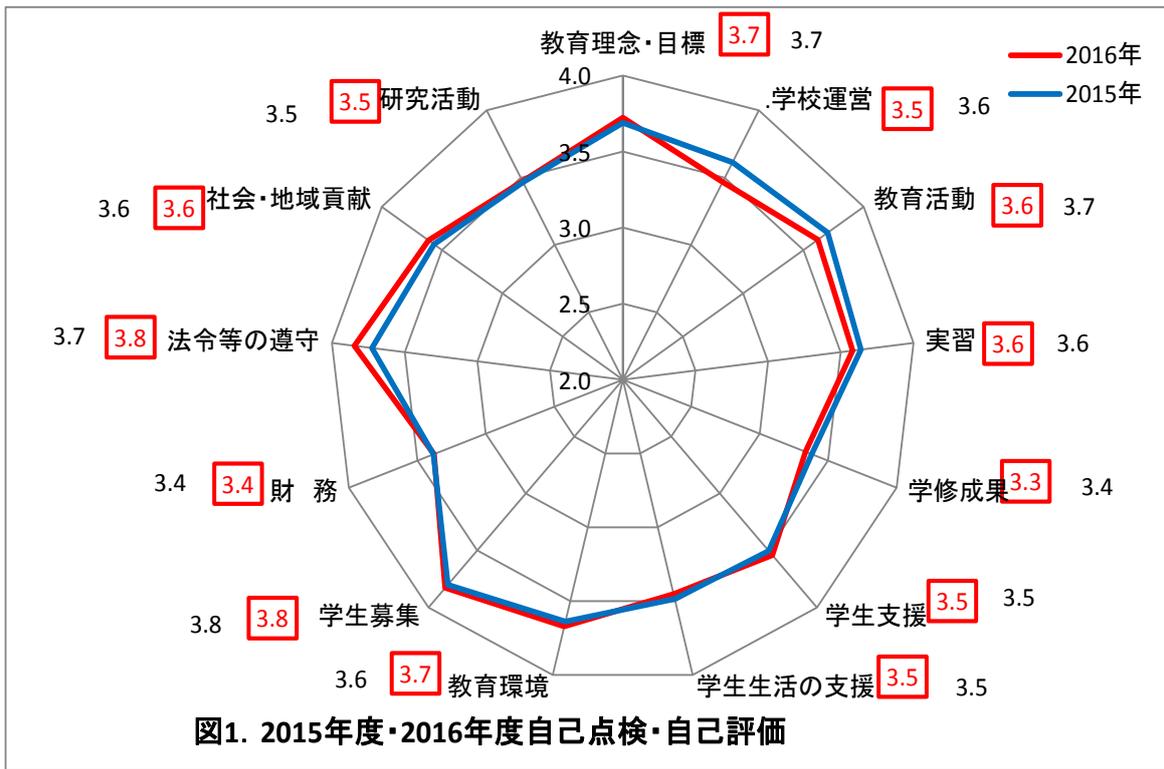
⑤結果:2016年度の結果は、全体平均3.68で、昨年同様の水準を維持している。2016年度の結果3.5以下は、「教育理念、目的」と「学校運営」の2項目であった。詳細についてはレーダーチャート図3に示した。

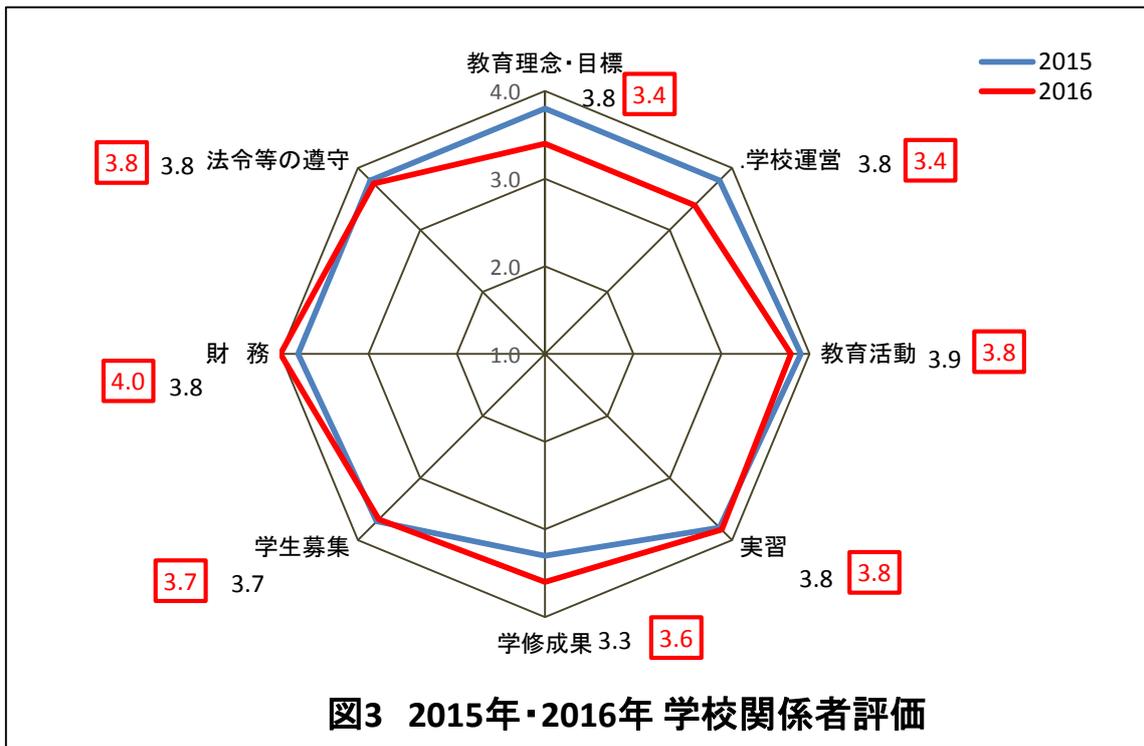
⑥改善への意見

- ・評価結果に合わせて対応策も公表し、何が課題なのかよく整理されていた。
- ・「中期的に見て財政的に財務基盤が安定しているのか」の項目について取り組んでいると感じた。
- ・学生確保、看護師確保、看護教員確保はお互いに連携を図っていかなければ、質の良い学生、看護師は育たないため、協力をさらに深め、質の良い学生を育て病院に来ていただく。
- ・学校関係者評価を毎年実施する必要があるのか。

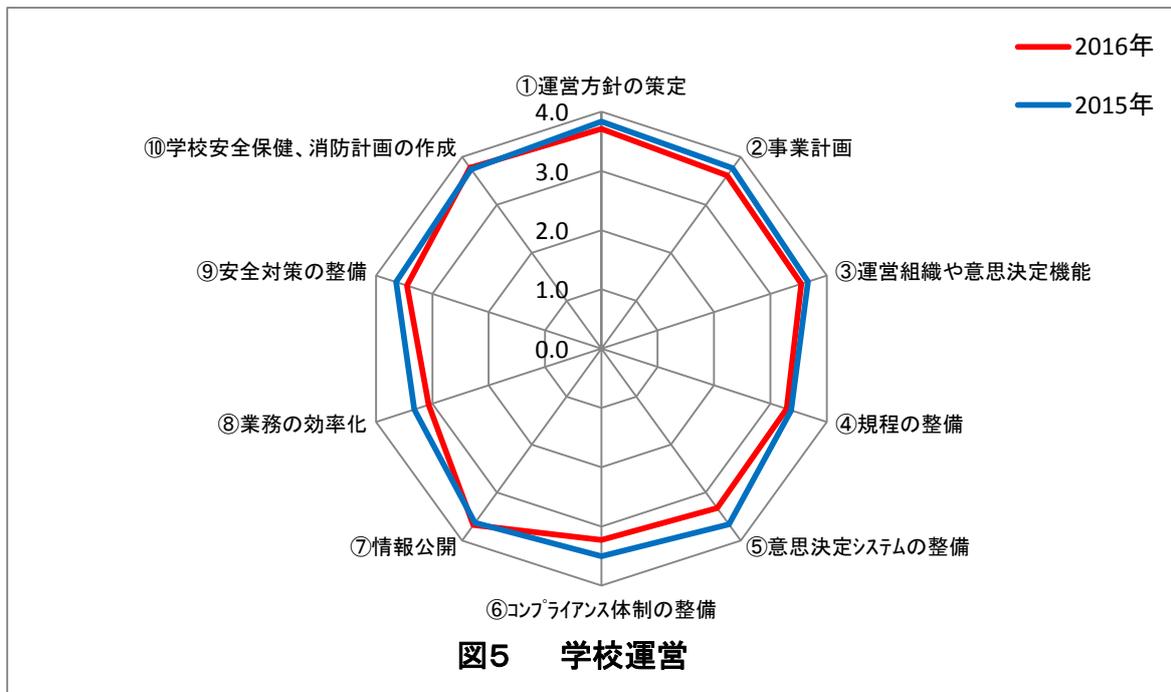
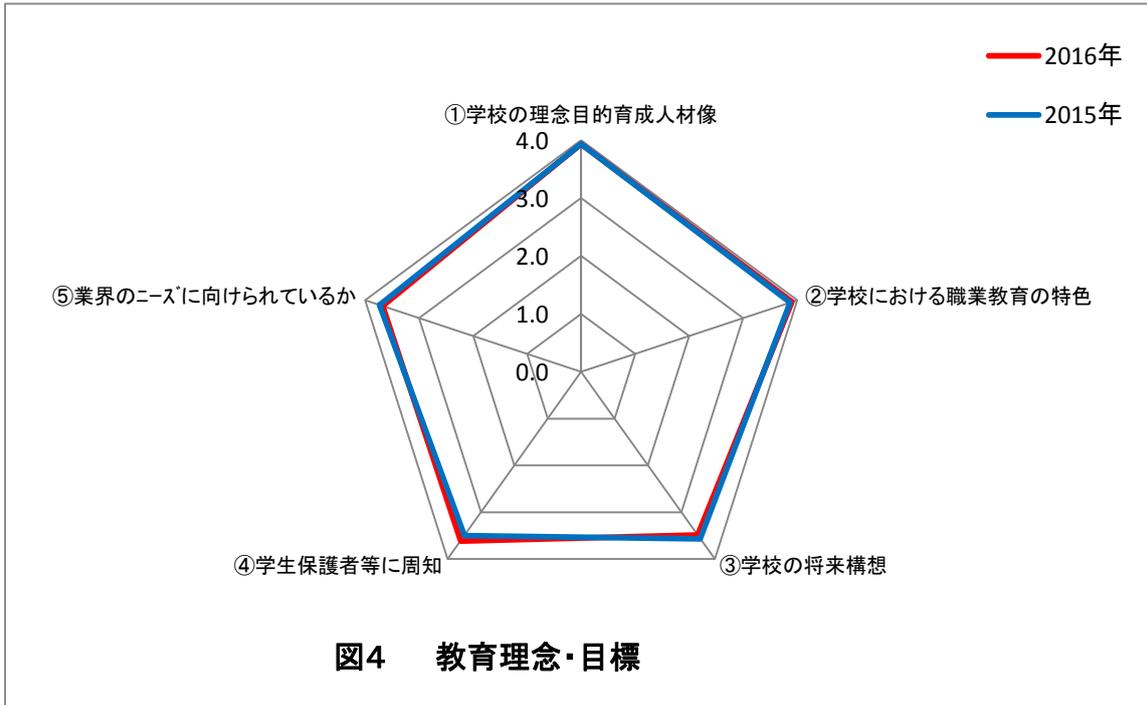
以上の学校関係者評価の意見を参考にしながら、次年度の教育の質および学校運営へ役立てていく。

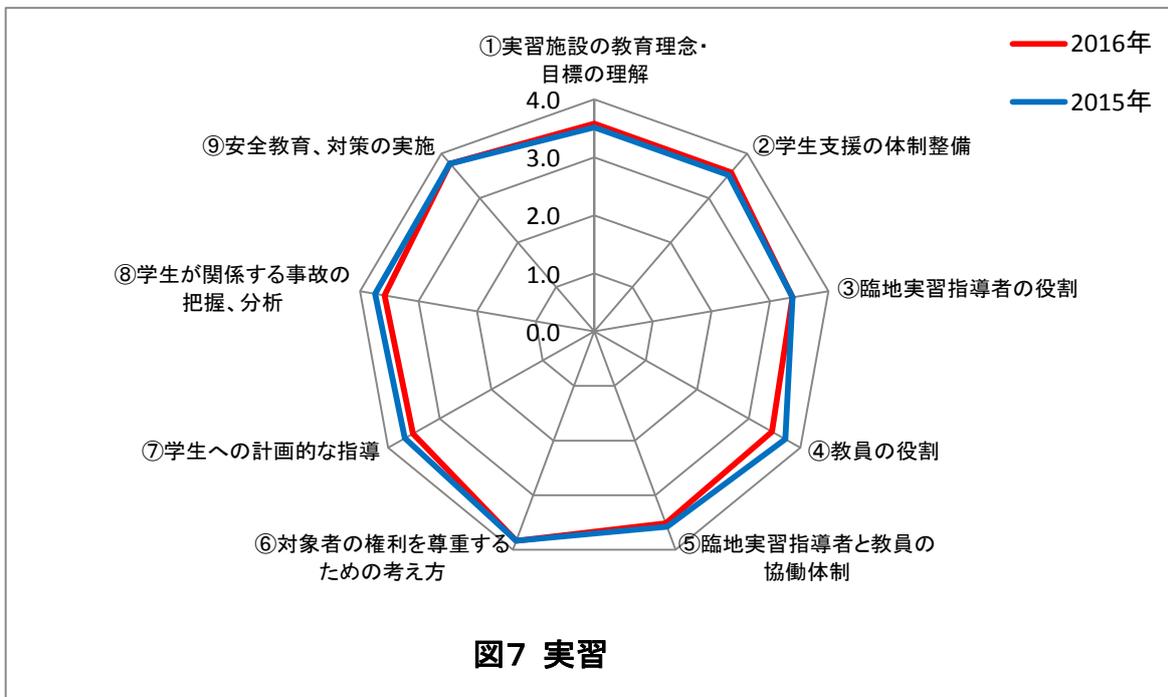
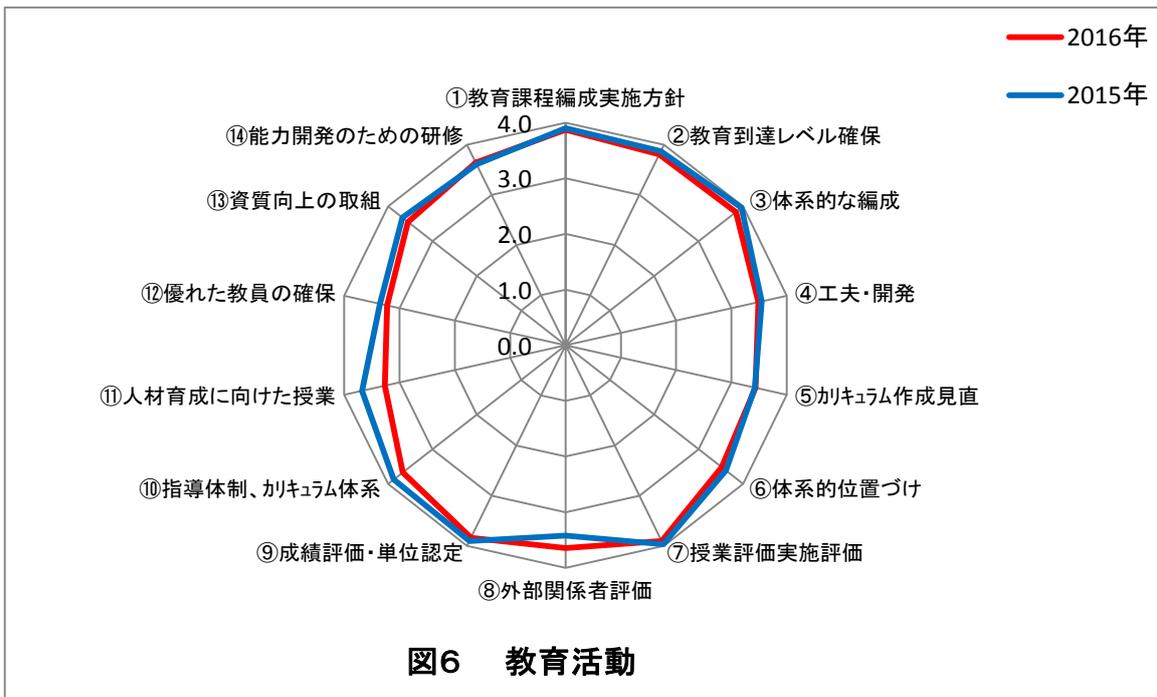
2015年度と2016年度自己点検・自己評価、学校関係者評価大項目の平均値の結果をレーダーチャート図1から図3に示す。

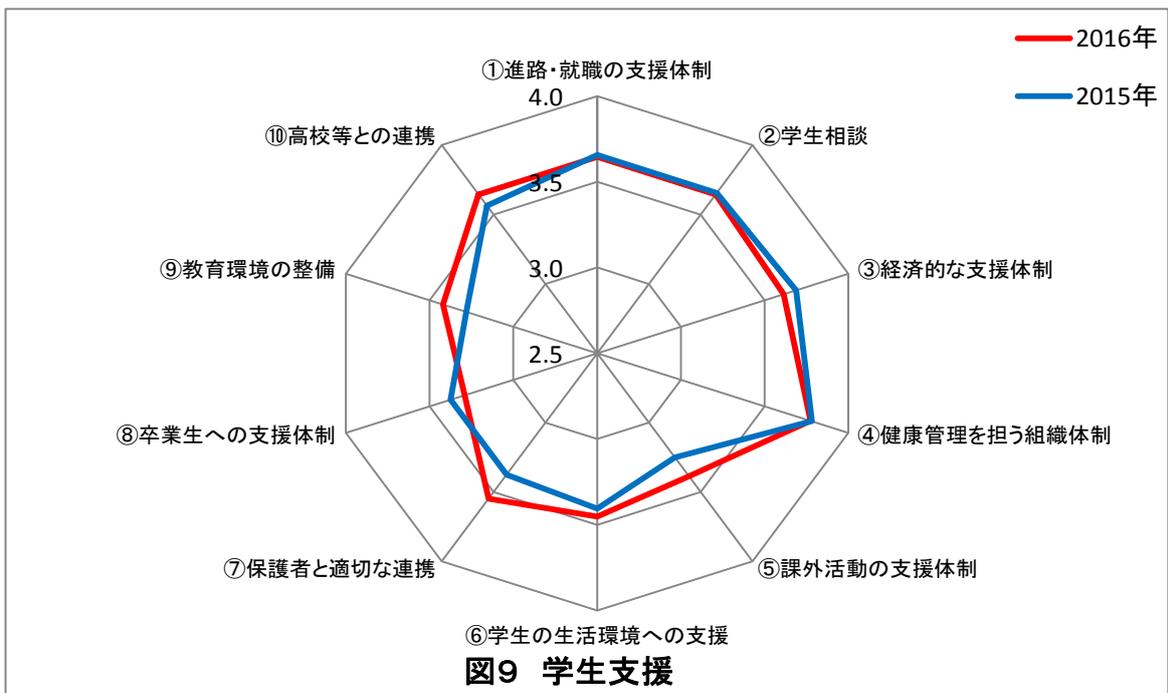
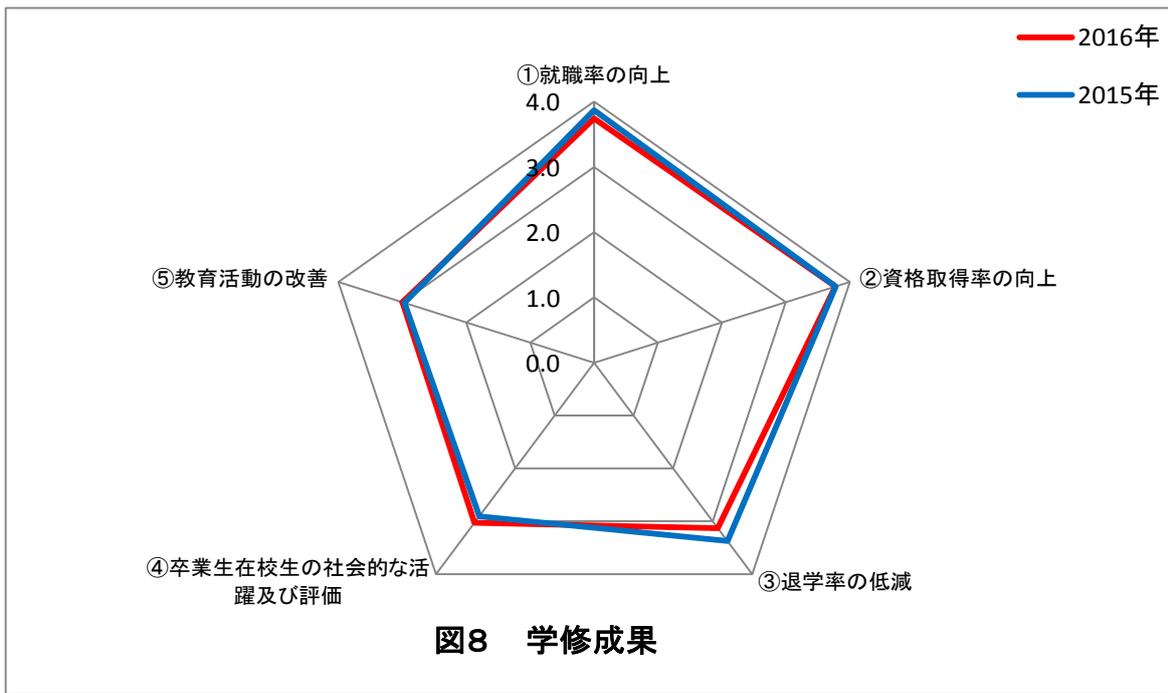




各項目の細項目のレーダーチャートを図4から図16に示す。







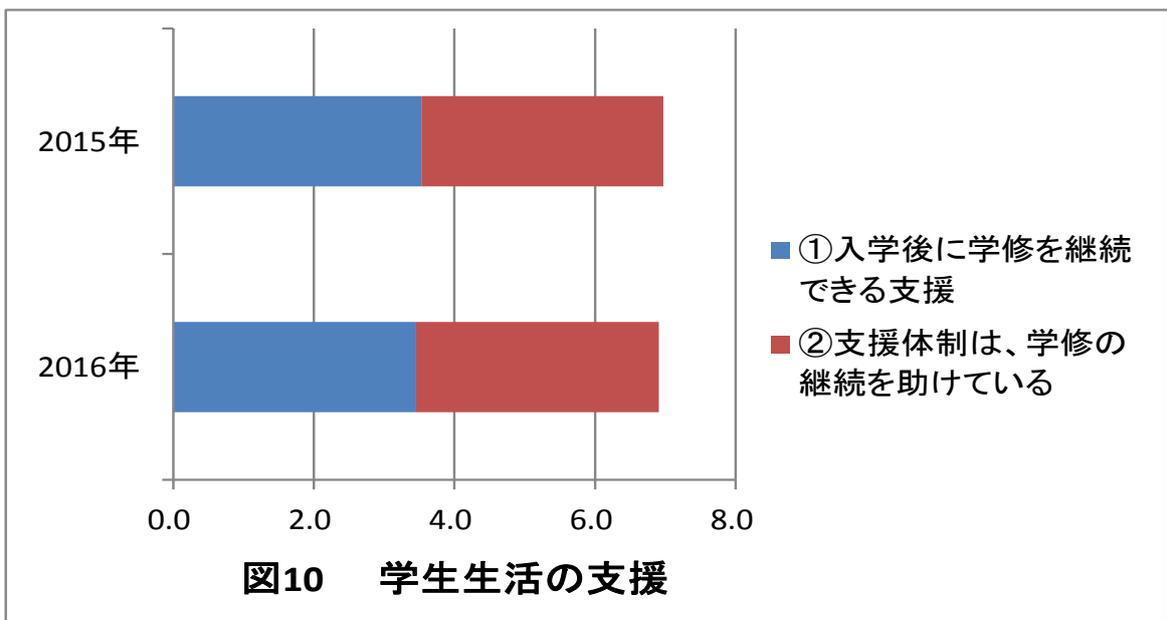


図10 学生生活の支援

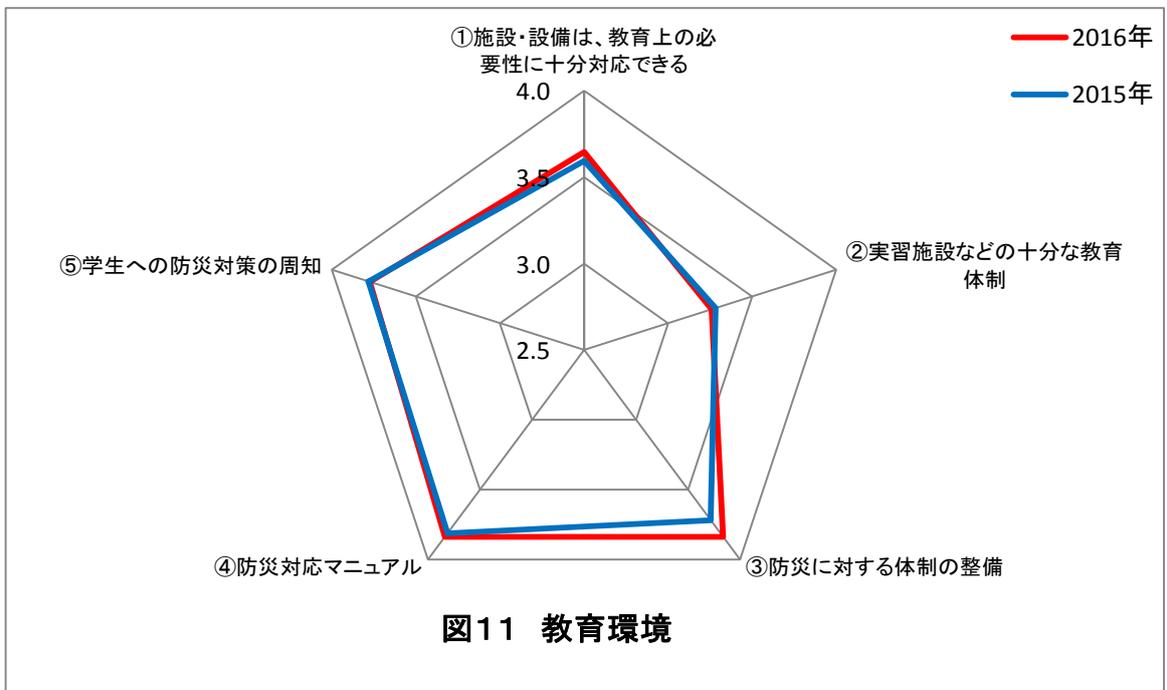
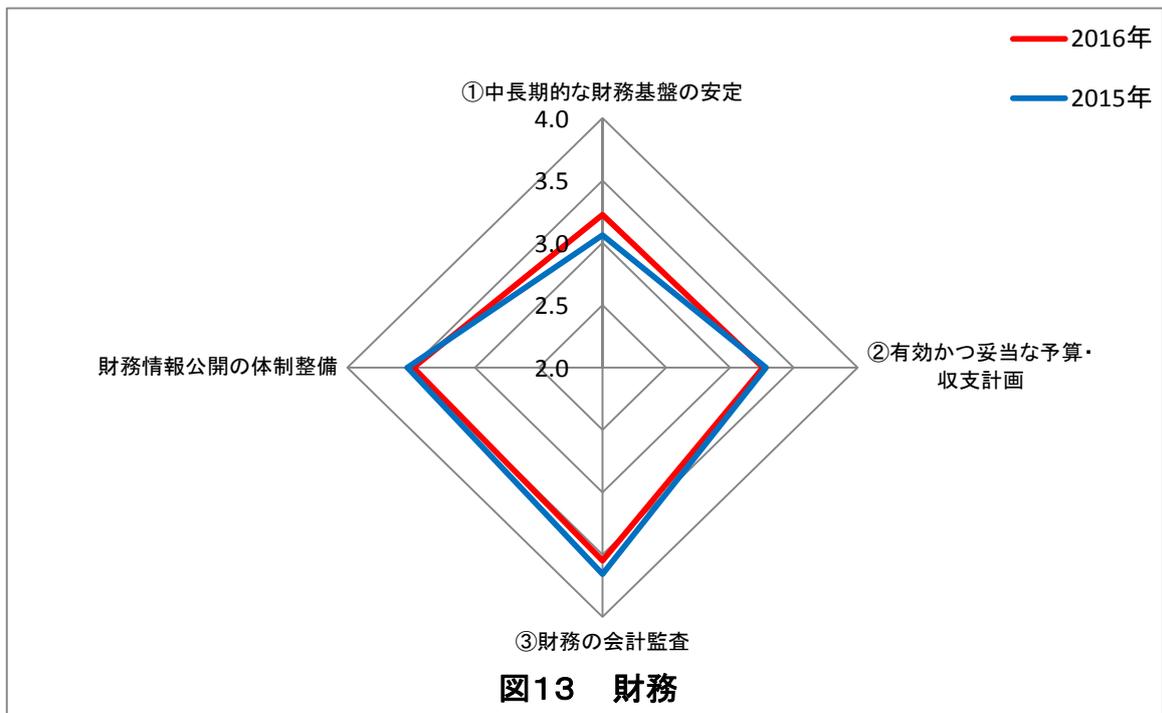
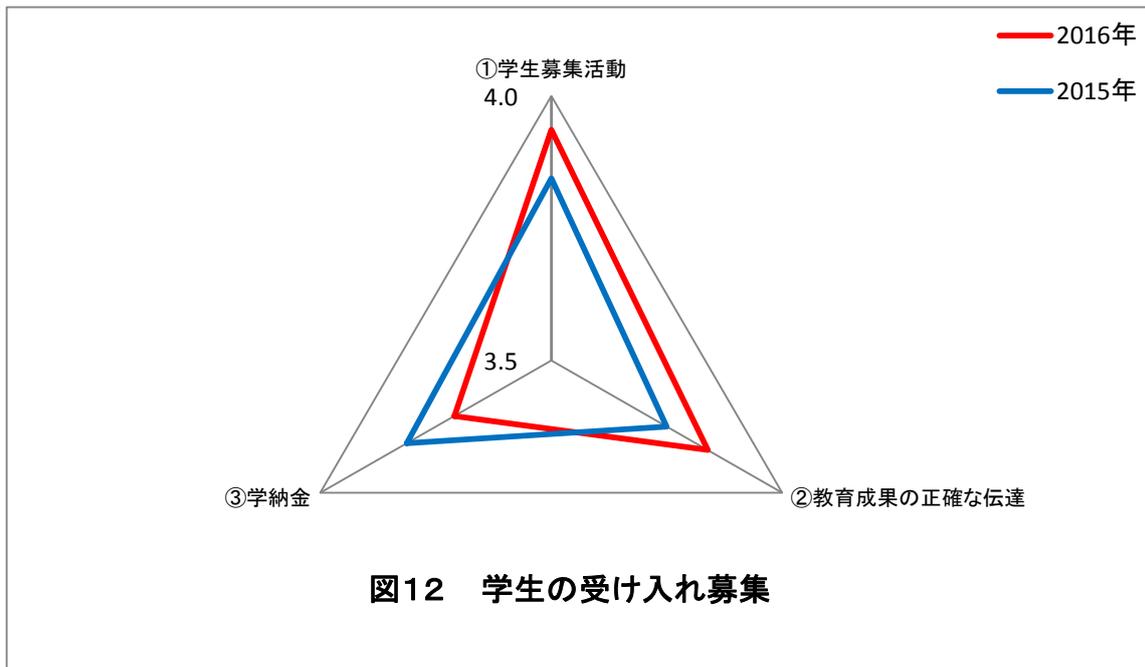
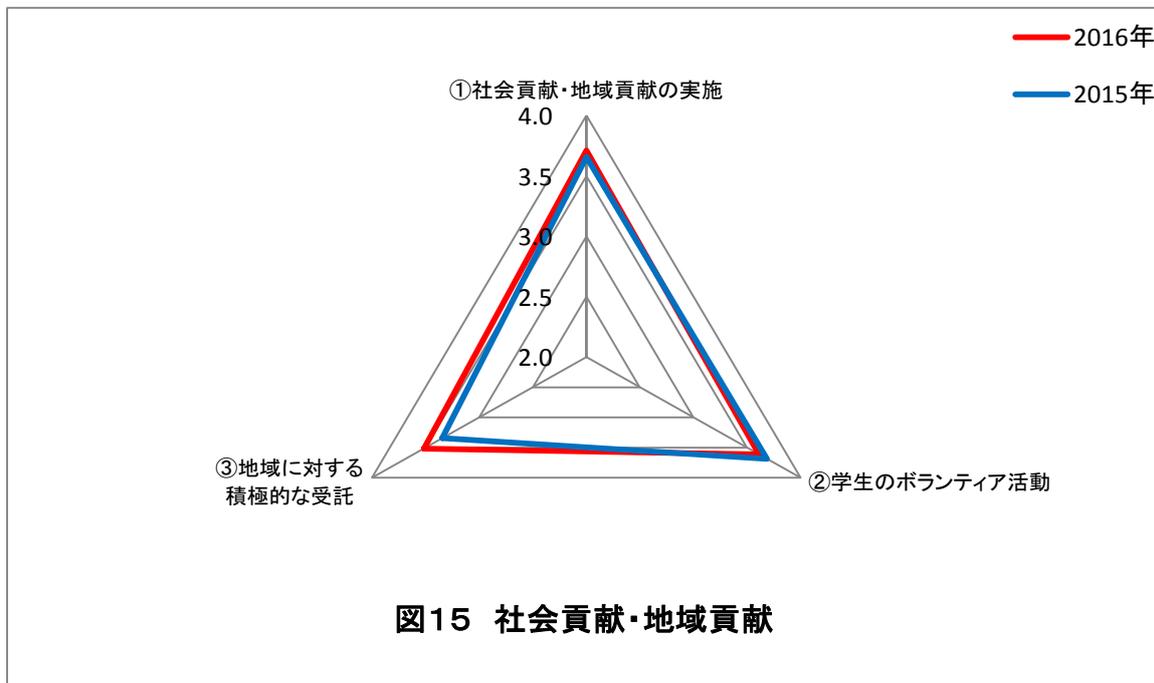
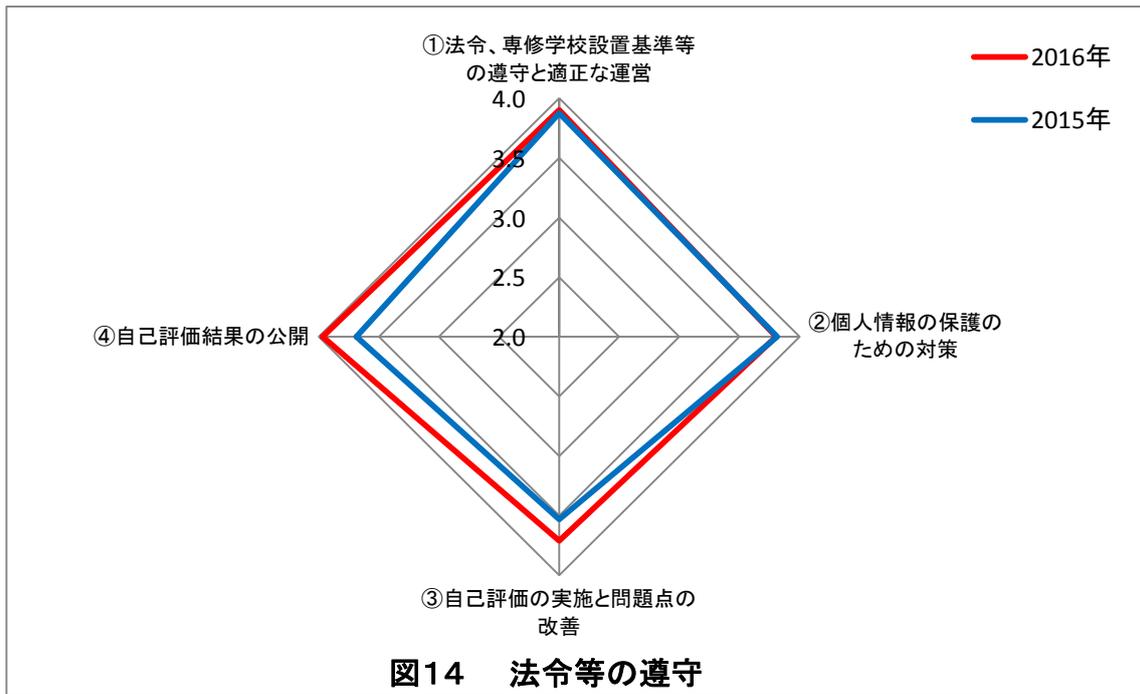


図11 教育環境





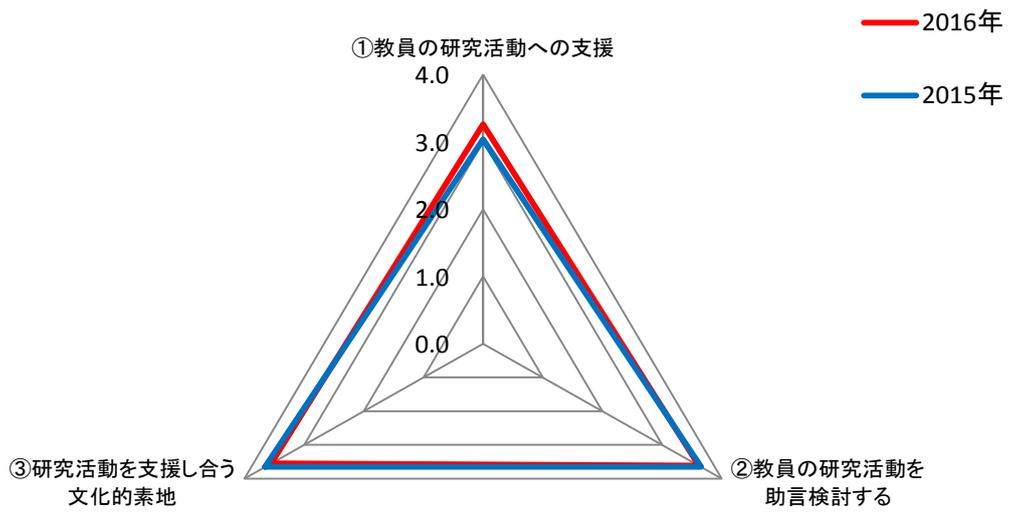


図16 研究活動への支援